

シーシーエス株式会社 2010年7月期決算説明会

2010年9月15日(水)

ジャスダック 証券コード6669

目次

1. 企業概要
2. 2010年7月期の決算概要
3. 2011年7月期の通期計画

1. 企業概要

シーシーエスの企業理念

光を科学し、社会に貢献する

Creative Customer Satisfaction
クリエイティブ カスタマー サティスファクション

お客様の満足を高めるための技術と
製品をひたむきに追求し、
企業活動を通じて社会の役に立ちたい

シーシーエスの事業領域

工業分野

工業用照明分野



顕微鏡・ 目視分野



メディカル分野



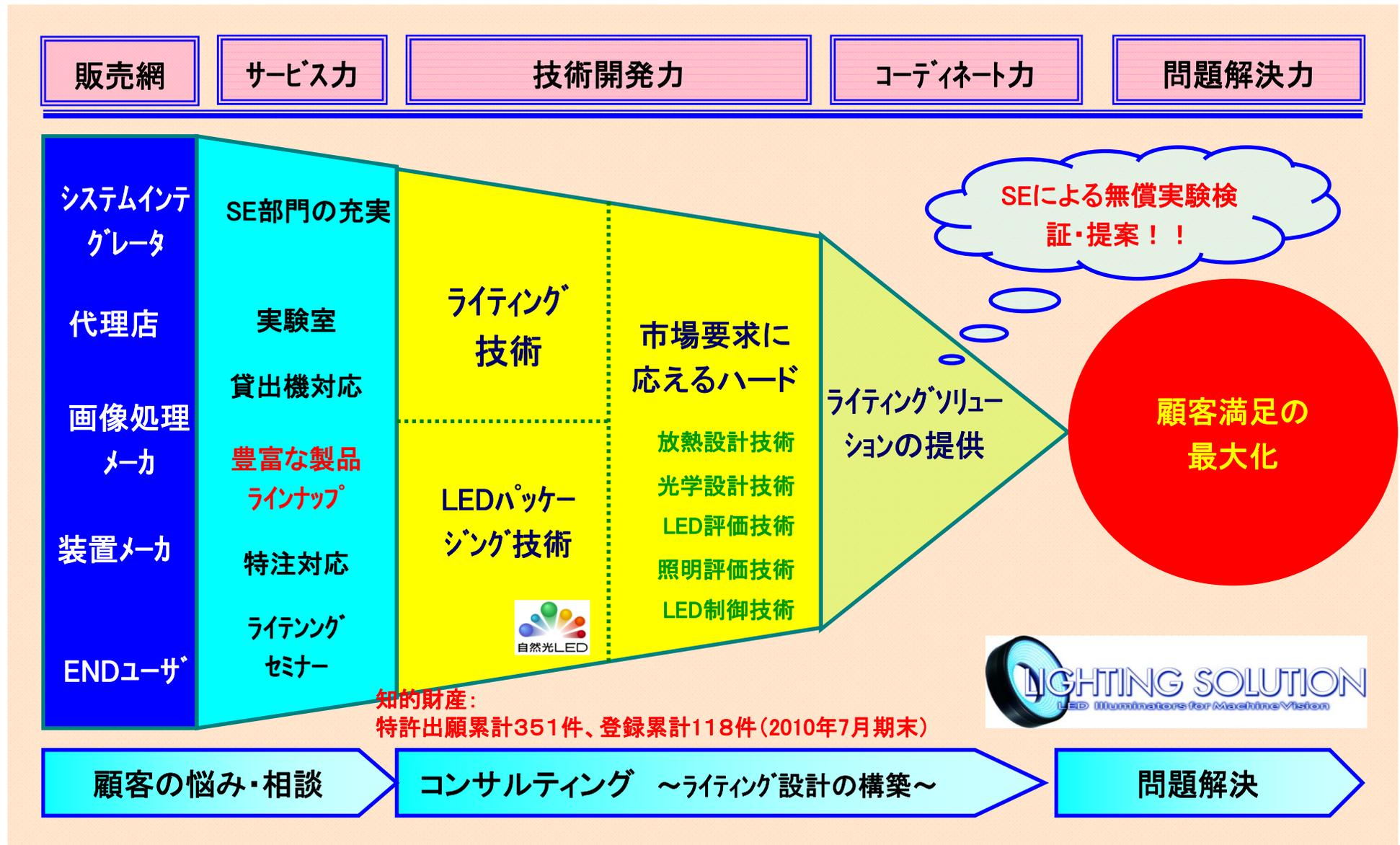
バイオ・アグリ分野



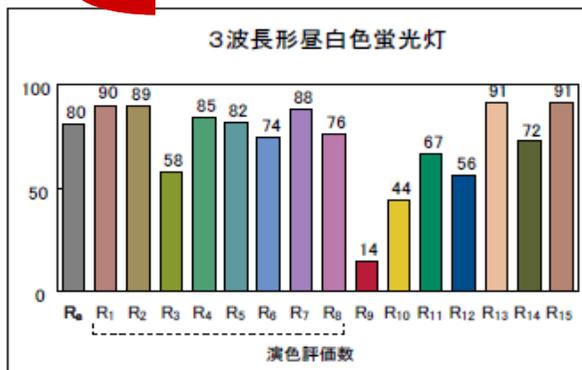
民生・商業分野



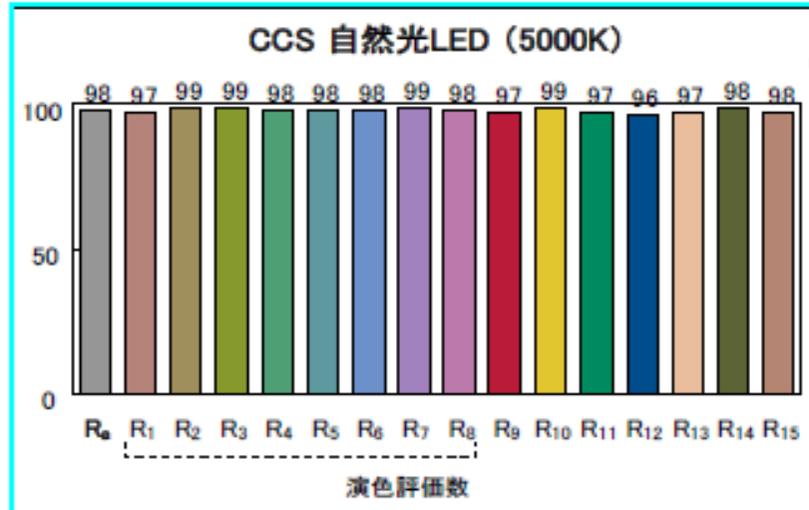
工業用LED照明事業のビジネスモデル



シーシーエスのLEDデバイス技術 業界最高の演色性

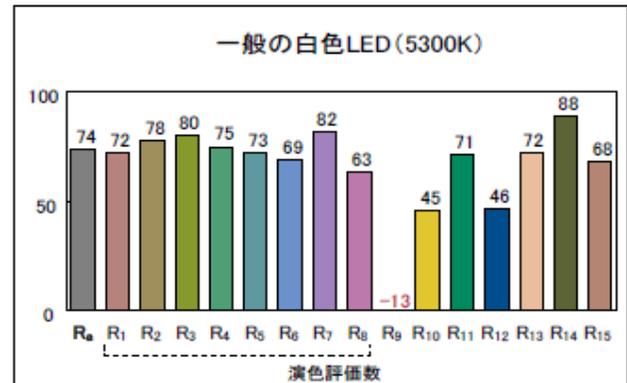


3波長蛍光灯 (Ra=70)



シーシーエスの自然光LED
(平均演色評価数 Ra=98)

・JIS規格で定義される色を平均98まで再現できる光である。



従来の白色LED (Ra=70)

自然光LED搭載照明の商品化に注力

アパレル

商業施設の商品ディスプレイ用、ショーケース用照明



美術館・博物館用照明



自然光LED



食品



京都から世界へ

～京都発 光の世界企業を目指す～

- p 他社に先駆けて画像処理用LED照明を海外へ輸出
- p 海外売上高比率は2004年7月期以降25%以上

参考資料:LED開発の歩み

- 1962年代 赤色と黄緑色が開発
- 1970年代 赤色と黄緑色が実用化
- 1993年 青色が製品化
- 1995年 純緑色の開発
光の三原色がそろふ
- 1996年 白色が開発

- 現在 発光効率の向上
高演色性白色の開発

- 1993年 シーシーエス株式会社を設立
- 1994年 画像処理用LED照明事業に特化
- 1999年 アメリカに関係会社を設立
- 2003年 上海に駐在員事務所を設立
- 2004年 シンガポールに関係会社を設立
- 2004年 ベルギーに関係会社を設立
- 2008年 深センに駐在員事務所を設立



2. 2010年7月期の決算概要 (連結)

2010年7月期連結業績

	2009/7 実績		2010/7 実績		変動	
	累計実績 [A]		累計実績 [B]		前年同期比	
	金額 (百万円)	対売上比 (%)	金額 (百万円)	対売上比 (%)	[B]-[A] (百万円)	[B]/[A] (%)
売上高	3,608	100.0	4,775	100.0	1,167	132.3
売上総利益	2,046	56.7	2,578	54.0	532	126.0
販管費	2,961	82.1	2,818	59.0	-143	95.2
営業損失	-915	-25.4	-239	-5.0	676	—
経常損失	-950	-26.3	-253	-5.3	697	—
当期純損失	-784	-21.7	-1,419	-29.7	-635	—

前年同期比

売上高
販管費
営業利益
当期純利益



キーポイント

既存事業は計画を上回り、前期比32.3%増
経費削減効果あり
既存事業の売上増加、経費削減により改善
特別損失の発生

決算キーポイント

- p LED照明事業において、電子半導体業界での需要増に伴い、下期以降は国内・海外ともに設備投資が活発化。
- p 売上の増加および効率化、コスト削減により、LED照明事業は第3四半期会計期間において、6四半期ぶりに黒字化を実現。
第4四半期は引き続き好調で、2010年6月度、単月売上最高記録を更新。
- p 子会社フェアリーエンジェル社は、野菜事業及びレストラン・カフェ事業の見直しを行い、経営資源を成長が見込まれる植物育成プラント事業に集中。これに伴う減損損失が発生。

減損損失等の内容とGIC注記について

連結子会社フェアリーエンジェルの事業見直しに起因する特別損失の主な内容

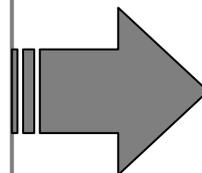
(単位:百万円)

連結決算		個別	
科目	金額	科目	金額
減損損失:工場等固定資産(3Q)	652	関係会社株式評価損(3Q)	320
減損損失:のれん(3Q)	146	貸倒引当金繰入(4Q)	1,034
減損損失:工場等固定資産(4Q)	442		
合計	1,282	合計	1,354

継続企業の前提に関する注記について

要因

- ✓ 2期連続営業損失
- ✓ 2期連続営業キャッシュフローのマイナス
- ✓ フェアリーエンジェル社の債務超過
- ✓ コミットメントライン契約の財務制限条項に抵触



解決の対応策

- ✓ LED照明事業の拡大による大幅黒字確保
- ✓ フェアリーエンジェル社の構造改革
 - ①不採算事業の撤退と財務基盤の強化
 - ②植物育成プラント事業の確立

事業別の状況

(単位:百万円)

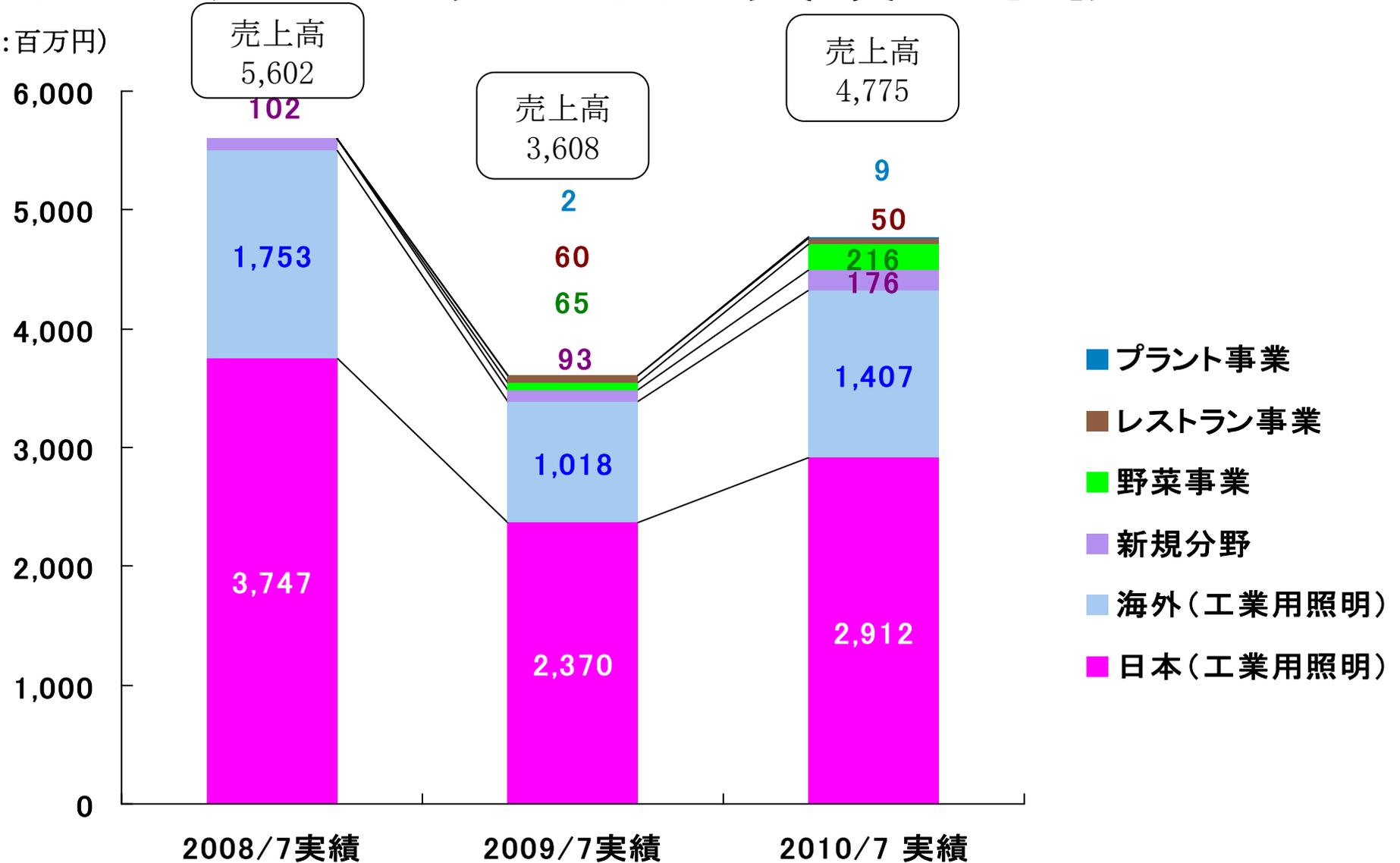
【売上高】	2009/7 期末	2010/7 期末	変動	
	累計実績 [A]	累計実績 [B]	前年同期比 [B] - [A] [B] / [A]	
■LED照明事業	3,480	4,498	1,018	129.2%
■野菜事業	65	216	151	—
■レストラン・カフェ事業	60	50	-10	—
■プラント事業	2	9	7	—

【営業利益】	2009/7 期末	2010/7 期末	変動	
	累計実績 [A]	累計実績 [B]	前年同期比 [B] - [A] [B] / [A]	
■LED照明事業	-587	287	874	—
■野菜事業	-199	-355	-156	—
■レストラン・カフェ事業	-44	-43	1	—
■プラント事業	-4	-26	-22	—

2009/7 期末の野菜事業、カフェ・レストラン事業、プラント事業の累計実績は、2009/7月期 3Qから連結の範囲に含めておりますので、6か月間のみの実績となっております。

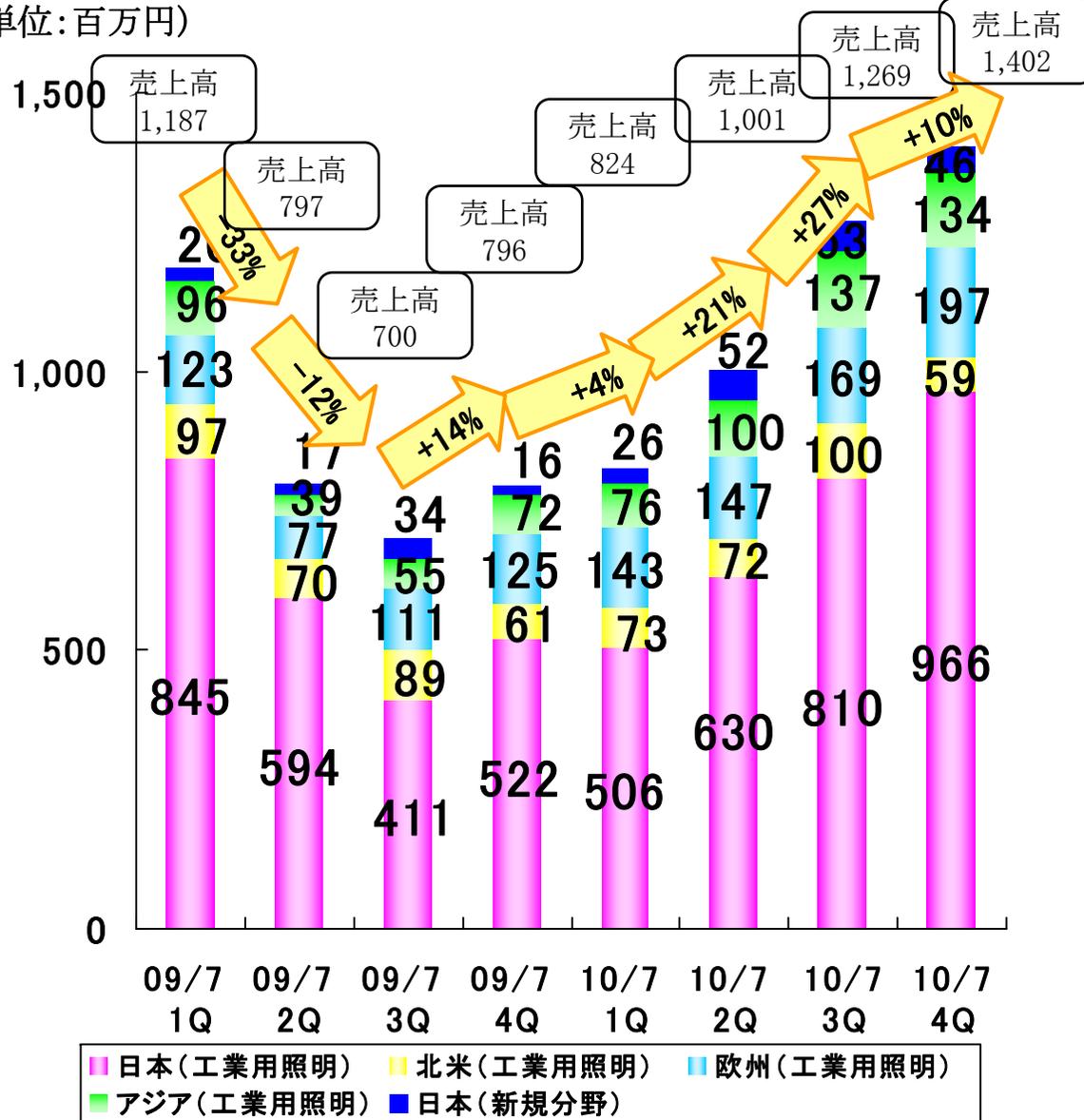
事業別・分野別売上高 実績の推移

(単位:百万円)



LED照明事業・地域別売上高(連結)

(単位:百万円)



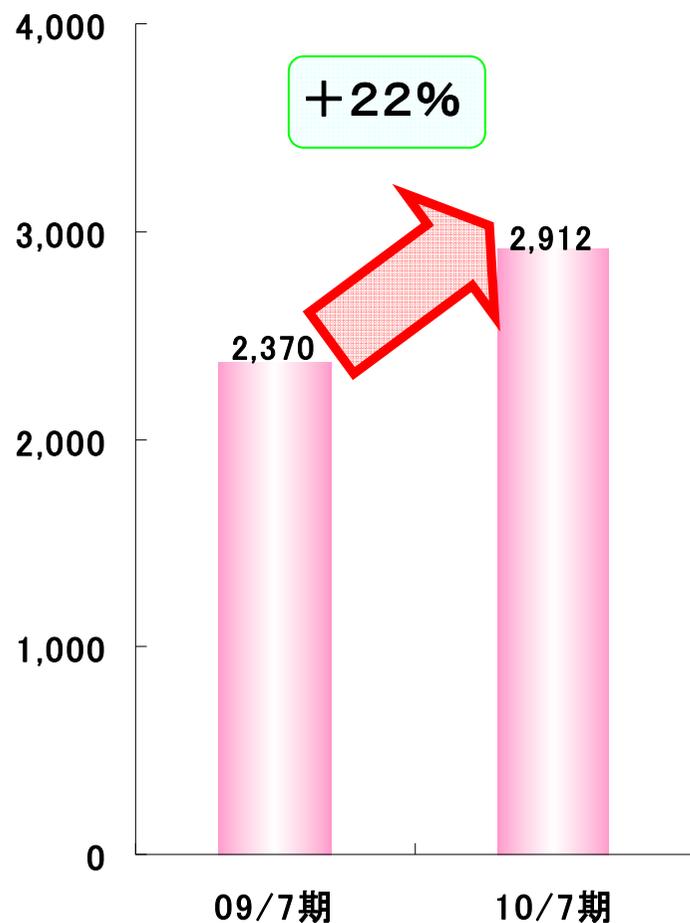
主な需要分野	足元のマクロ状況	当社の状況
電気・電子半導体	中国を中心とした東アジアの需要が活況	中国関連の受注はさらに大きくなる見通し
半導体装置メーカー	電子半導体部品の活況を受け、徐々に生産量が増加	東アジアを中心に受注が活発化
太陽電池	中国・台湾・韓国の生産高が日本に迫りつつあるが、日本でも活発化の模様	エリア照明・ライン照明の両用途があり、アプリケーションのフォロー重要
自動車	新興国向けを中心とした海外輸出に生産が回復、増産傾向	品質関係、HV関係で画像テーマの動きが出始めている

売上高の増加推移と当社の状況

国内(工業用照明)

⊕ プラス要素 ⊖ マイナス要素

(単位:百万円)



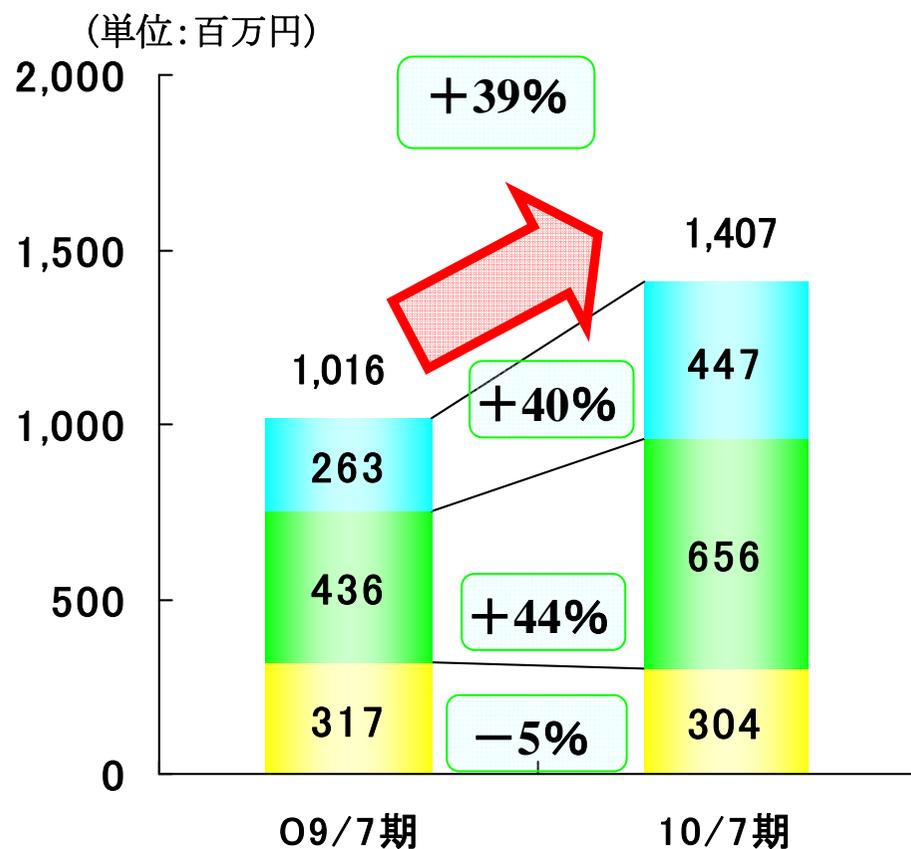
当社の状況	
⊕	【東京・西部】 <ul style="list-style-type: none">・電子・半導体関連向けが好調・電子・電気業界の装置メーカーへの受注は堅調に推移・包装・パッケージ向け、FPD関連向けが順調
⊖	【名古屋】 <ul style="list-style-type: none">自動車関連向けがやや慎重ながらエコカー補助金で後半持ち直し

東京営業所は、北海道、東北、関東、新潟県をカバー
名古屋営業所は、中部東海地域をカバー
西部営業所は、近畿、北陸、中国、四国、九州地域をカバー

売上高の増加推移と当社の状況

海外(工業用照明)

⊕ プラス要素 ⊖ マイナス要素



■ 北米(工業用照明) ■ 欧州(工業用照明)
■ アジア(工業用照明)

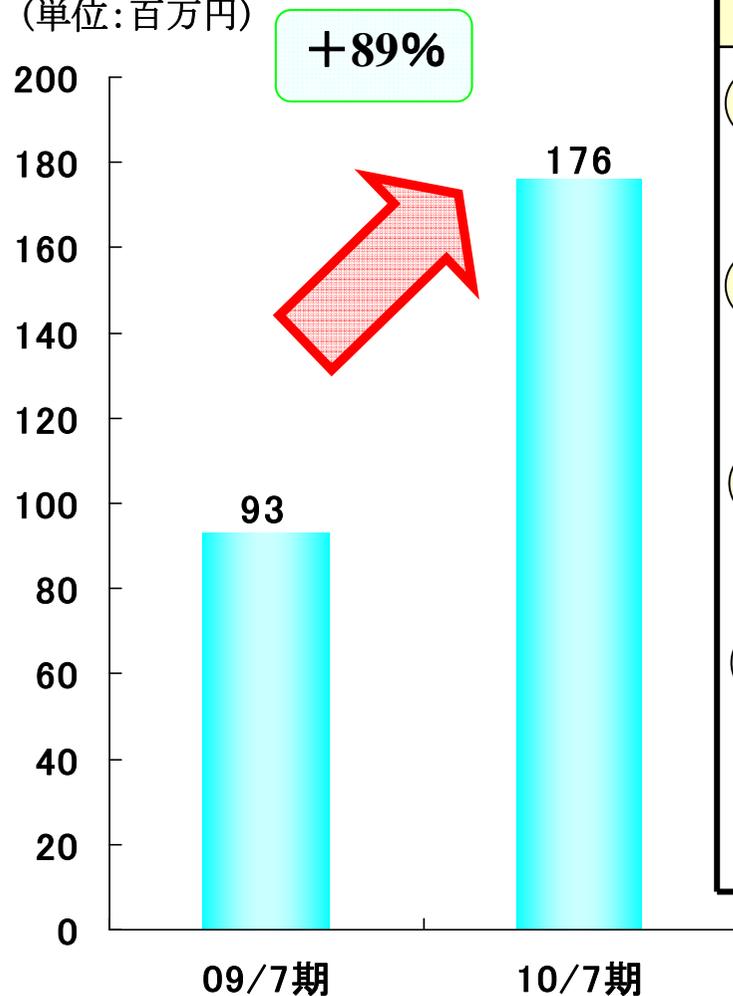
当社の状況	
⊕	欧州において主要顧客中心に好調 欧州における画像処理市場は順調に成長
⊕	中国における案件数の倍増 外資系企業の中国進出の増加
⊕	シンガポールを中心とした電子半導体関連の設備投資が回復
⊖	北米では、設備投資の抑制が見受けられ、低調に推移

売上高の増加推移と当社の状況

新規事業分野

⊕ プラス要素 ⊖ マイナス要素

(単位:百万円)



当社の状況

- ⊕ 「自然光LED」をベースに、顕微鏡メーカーと顕微鏡専用LED照明を開発
- ⊕ 美術館・博物館におけるLEDの照明の導入が徐々に進みつつある
- ⊕ 継続的な売上に繋げるべく、市場や顧客要求を満たす仕様の製品やアプリケーションを展開を進める
- ⊖ 商流の確保、営業の強化に取り組む

工業用照明分野における成果

2010年7月期重点施策[1]:工業用照明分野における更なる事業拡大



LED光源ボックス「PFB-20SW」の導入加速

背景	<p>既存のラインでハロゲン光源ボックスを使用されているが、以下のような問題点があり、LED光源ボックスが注目される。</p> <ul style="list-style-type: none">・寿命が短い⇒メンテナンスコストがかかる・発熱量が大きい⇒温度上昇が品質に影響する可能性がある	当社の優位性	<ul style="list-style-type: none">・高出力(放熱構造、光エネルギーの効率化)・小型(検査装置への組み込みがしやすい、工場ラインに設置しやすい)
-----------	--	---------------	---



ライン照明の導入順調

背景	<p>ライン照明はハロゲンと蛍光灯が主流であったが、LEDの発光効率が向上するにつれ、各社が2008年ごろからLEDライン照明を市場投入し始める。</p>	当社の優位性	<ul style="list-style-type: none">・独自の光学設計技術により、高均一度を実現・ソリューション提案が充実(実験設備と専門チームを設置し、お客様のニーズに対応できる)
-----------	---	---------------	---

新規分野における成果

2010年7月期重点施策〔2〕:新規分野でのマーケット創造

民生・商業分野

「自然光LEDランプ」を新発売(2009年3月受注開始)

「LED薄型ライン照明」を新発売(2009年4月受注開始)

世界最高レベルの
高演色性を持つ
自然光LED照明



美術館・博物館、
商業施設など
色の再現性にこだわる
照明として

メディカル分野

医療機器製造販売業ならびに医療機器製造業の
許可取得(2009年10月)～医療分野へ本格参入へ

新規分野における成果

2010年7月期重点施策〔2〕:新規分野でのマーケット創造

目視・顕微鏡分野

オリンパス株式会社と顕微鏡専用LEDを共同開発

世界最高レベルの高演色性を持つ自然光LED照明が、主に病院での臨床検査や生命科学・医学の研究分野、または薬品メーカーや食品メーカーなどの研究用途で評価されています。

2010年4月

バイオ・アグリ分野

野菜工場向け自然光LED蛍光管タイプを開発

太陽光に近い蛍光管タイプの白色発光ダイオードを開発しました。植物の光合成に適した自然光を再現。植物工場や美術館を中心に需要を見込んでいます。

2010年1月

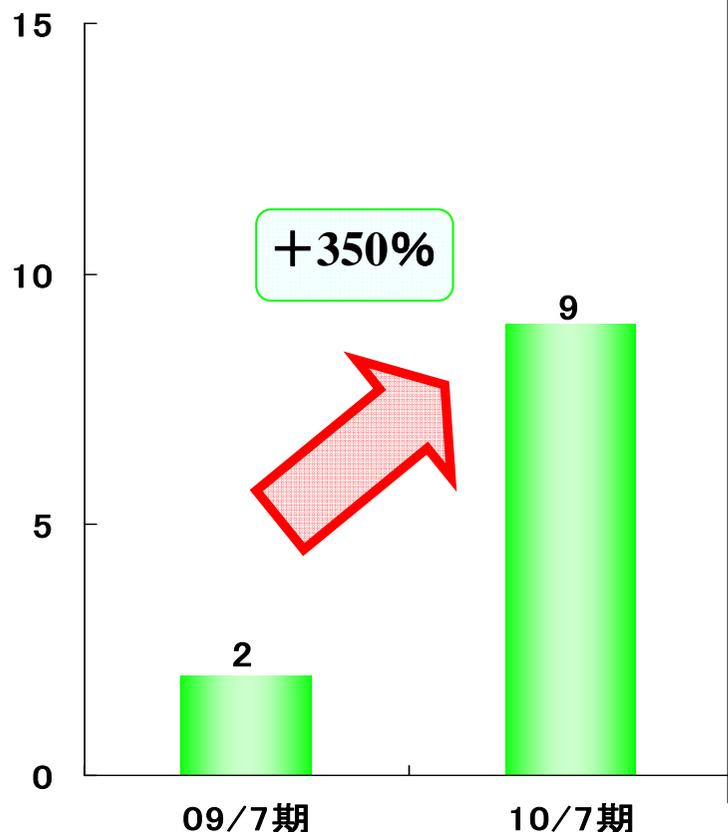


売上高の増加推移と当社の状況

植物育成プラント事業

⊕ プラス要素 ⊖ マイナス要素

(単位:百万円)



当社の状況

- ⊕ 「コンテナ野菜工場」の第1号基を中東カタール国の食品関連企業へ納入が決定
- ⊕ (株)フジワークと植物工場の操業に関わる人材育成に関して共同で事業化を進める事業提携に合意。植物工場施工と栽培コンサルティングサービスを開始
- ⊕ 現在、国内30件、海外10件商談中
- ⊖ 提携企業先とのアライアンスを含む体制整備が課題

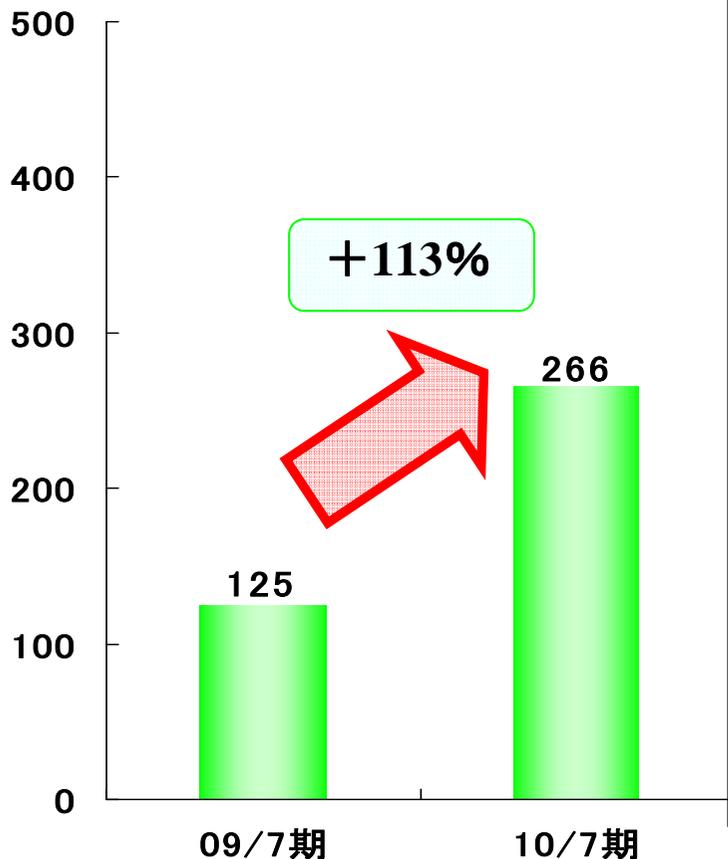
2009/7 期末の野菜事業、カフェ・レストラン事業、プラント事業の累計実績は、2009/7月期 3Qから連結の範囲に含めておりますので、6か月間のみの実績となっております。

売上高の増加推移と当社の状況

その他事業

(野菜事業、カフェ・レストラン事業)

(単位:百万円)



⊕ プラス要素 ⊖ マイナス要素

当社の状況

- ⊕ 野菜事業: 大手GMSへ納入開始し、取扱店舗が増加。気候変動による価格高騰に伴い、販売数量増加
- ⊖ レストラン・カフェ事業: 2009年9月末をもって、店舗を5店舗から2店舗へ縮小し、拡販に努めるも黒字化実現せず
- ⊖ 野菜事業、レストラン・カフェ事業は順次縮小、撤退することに決定

減損損失の内容

- ⊖ 野菜事業及びレストラン・カフェ事業は順次縮小し、撤退。資産の一部を植物育成プラント事業に転用するため、減損損失が発生

2009/7 期末の野菜事業、カフェ・レストラン事業、プラント事業の累計実績は、2009/7月期 3Qから連結の範囲に含めておりますので、6か月間のみの実績となっております。

植物育成プラント事業における成果

2010年7月期重点施策〔3〕: 植物工場関連のビジネスモデル確立

プラント事業

コンテナ野菜工場の海外輸出決定・中東カタールへ



2010年1月

(株)フジワークと人材育成および野菜工場運営 受託事業に関して業務提携を合意

2010年4月

店舗併設植物工場施工。2010年8月オープン。

貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

資産	09/7 期末	10/7 期末	負債・純資産	09/7 期末	10/7 期末
現金及び預金	1,378	754	流動負債	1,899	2,516
受取手形・売掛金	841	1,501	固定負債	2,226	1,755
たな卸資産	734	770			
その他	186	276			
流動資産合計	3,141	3,301	負債合計	4,126	4,271
有形固定資産	3,101	1,764	資本金	460	461
無形固定資産	311	81	資本剰余金	575	576
投資その他の資産	114	90	利益剰余金	1,660	200
			自己株式	△159	△159
			為替換算調整勘定	△73	△112
			新株予約権	29	-
			少数株主持分	49	-
固定資産合計	3,526	1,936	純資産合計	2,542	966
資産合計	6,668	5,237	負債・純資産合計	6,668	5,237

減損損失の計上により、純資産に大幅な減少が発生しております。

3. 2011年7月期の通期計画

2011年7月期計画(連結)

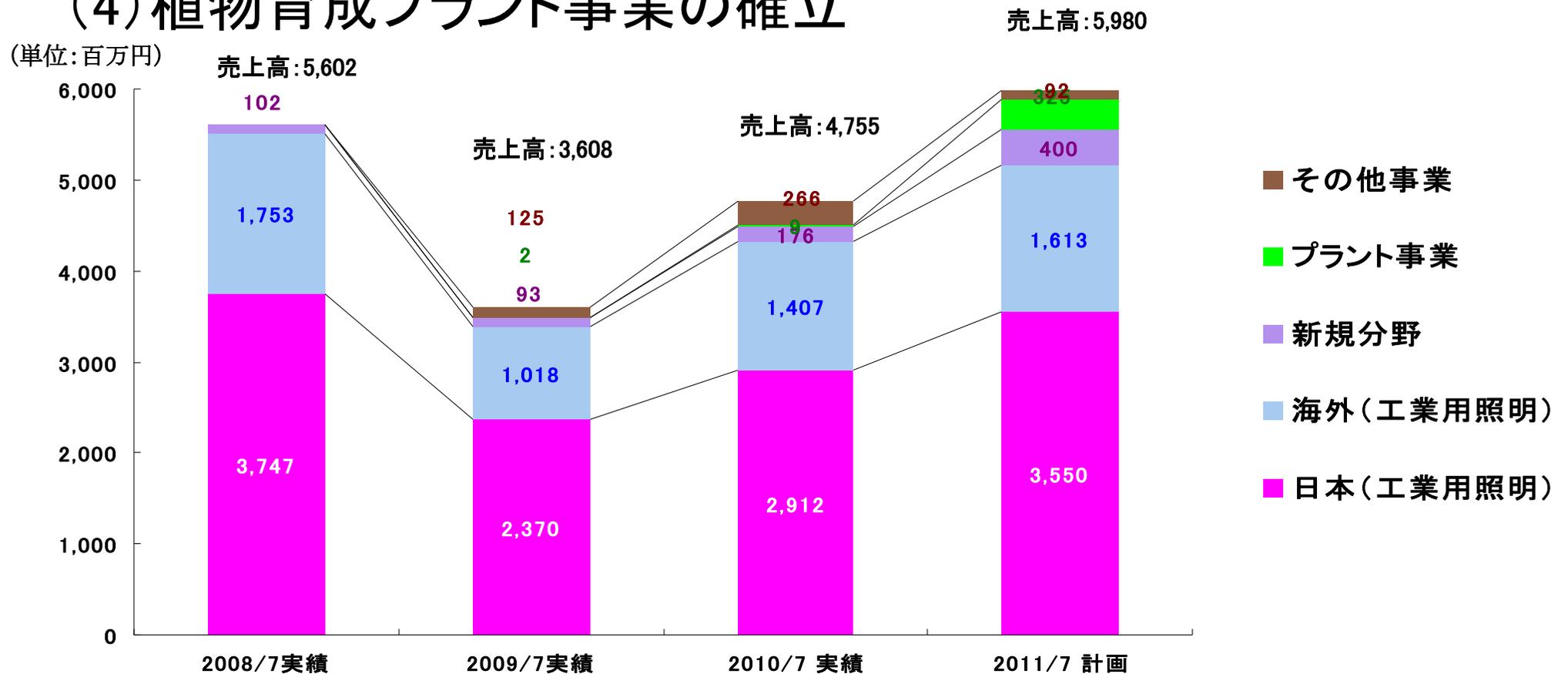
(単位:百万円) ()内:対売上比

	2010/7上期	2011/7上期	変動	2010/7通期	2011/7通期	変動
	実績 [A]	計画 [B]	前期比[C] [B]-[A] [B]/[A]	実績 [D]	計画 [E]	前期比[F] [E]-[D] [E]/[D]
売上高	1,951	2,700	549(138.3%)	4,775	5,980	1,205(125.2%)
国内工業用	1,136(58.2%)	1,720(63.7%)	584(151.4%)	2,912(60.9%)	3,550(59.3%)	638(121.9%)
海外工業用	707(36.2%)	741(27.4%)	34(104.8%)	1,408(29.4%)	1,613(26.9%)	205(114.5%)
新規事業	77(3.9%)	101(3.7%)	24(131.1%)	176(3.6%)	400(6.6%)	224(227.2%)
プラント事業	31(1.6%)	46(1.7%)	15(148.3%)	9(0.1%)	325(5.4%)	316(3611.1%)
その他事業	0(-)	92(3.4%)	92(-)	266(5.5%)	92(1.5%)	-174(34.5%)
売上総利益	974(50.0%)	1,606(59.7%)	632(164.8%)	2,578(53.9%)	3,647(60.9%)	1,069(141.4%)
販売管理費	1,397(71.6%)	1,616(59.8%)	219(115.6%)	2,818(59.0%)	3,190(53.3%)	372(113.2%)
営業利益	-423(-)	-10(-)	413(-)	-239(-)	350(5.8%)	589(-)
経常利益	-450(-)	10(-)	460(-)	-253(-)	420(7.0%)	673(-)
当期純利益	-397(-)	-30(-)	367(-)	-1,419(-)	240(4.0%)	1,659(-)

2010年7月期に新規事業に含めておりました新規FAと顕微鏡・目視分野は、
2011年7月期より国内工業用照明分野に含めて計算しております。

2011年7月期 重点施策

- (1) 国内工業用照明分野の強化・拡大
- (2) 海外事業展開のための体制づくり
- (3) 新規事業分野本格立ち上げ
- (4) 植物育成プラント事業の確立



(1)国内工業用照明分野の強化・拡大 ～国内工業用分野の環境認識～

設備投資が改善

- リーマンショックからの回復、
- 16期 3Qに底打ち、業績が改善。

電子・半導体を中心に景気回復中

- DRAM在庫逼迫、開発投資、新興国市場向け家電などに起因する電子・半導体需要が増加。

顧客は新興国需要を注視

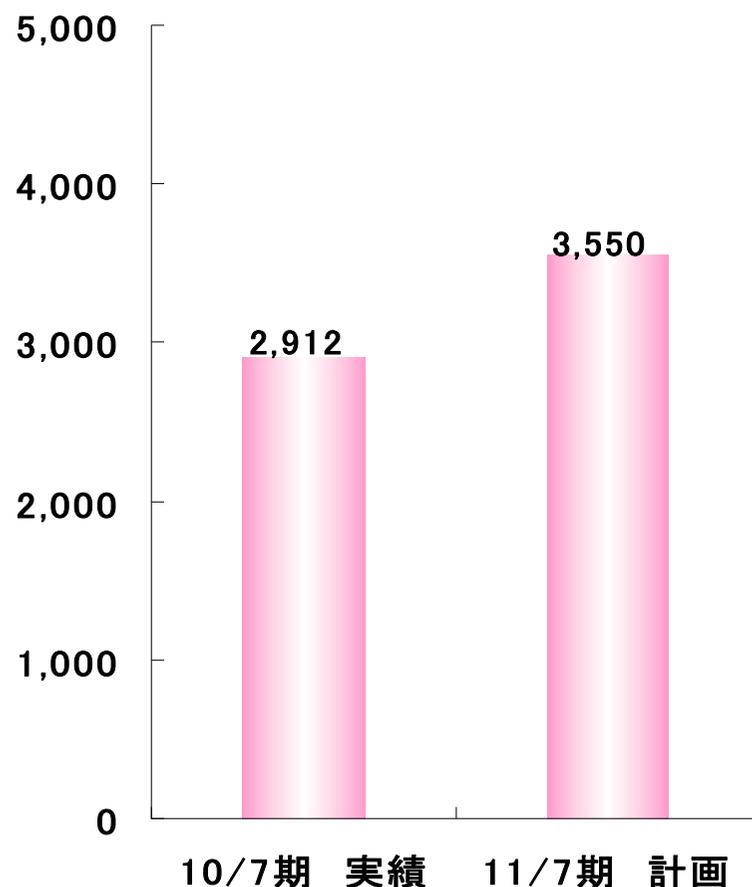
- GDP成長率の高い新興国に注目、また生産拠点はアジアへシフトする傾向。

画像処理の高解像度化、ライン市場の拡大傾向

(1)国内工業用照明分野の強化・拡大

～方針と計画～

(単位:百万円)



2011年7月期方針

- 新製品の開発に注力し、新製品の売上倍増
エリア照明:40機種
ライン照明:20機種
- 電池業界、自動車業界、薬品業界への営業活動を強化
- ライン照明の営業に注力
ライン専用実験室を東京に開設予定
- 新規FA(ファクトリーオートメーション)
UV光源による照明、顕微鏡光源など、既存網に加え、新規開拓で拡大を図る

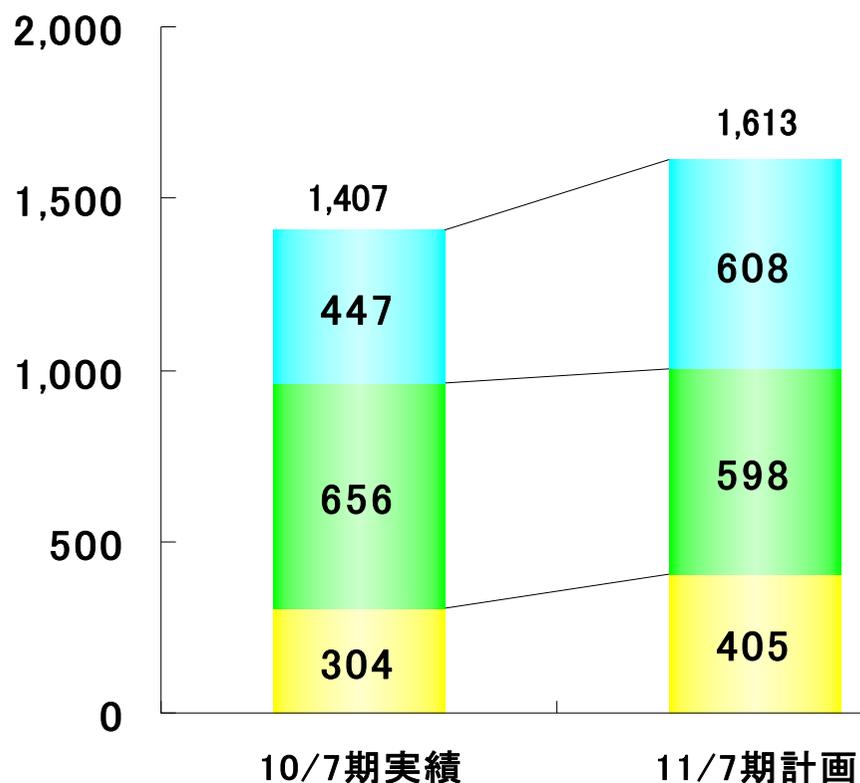
(2)海外事業展開のための体制づくり ～光のグローバル企業を実現するために～

- 海外事業部門を立上げ
- 工業用分野での海外売上比率を3年後36%から40%超へ
- 海外子会社の自主、独立性を高め、海外のローカル需要に対応
- 新たな拠点の開設を検討
インド(開発拠点)、タイ(営業拠点)に開設を検討中
将来の製造拠点の在り方も今後検討に入る予定

(2)海外事業展開のための体制づくり

～方針と計画～

(単位:百万円)



■ 北米(工業用)
■ アジア(工業用)

■ 欧州(工業用)

2011年7月期方針

➤ アメリカ

販売体制の強化および新商流の開拓

➤ ヨーロッパ

MVプレイヤーとの関係強化、大手装置メーカーの開拓により、ビジネス拡大の第二のステージへ

➤ アジア

新興市場攻略に向けた「国・地域別販売体制」の構築

[中国] 大手EMS企業案件に注力

[韓国] 大手メーカー案件、ラインセンサーカメラ案件に注力

[台湾] 半導体・電子・FPD製造装置メーカー、ラインセンサーカメラ案件に注力

(3)新規事業分野本格立ち上げ ～「自然光LED」のブランド確立～



- 新規事業部門を立ち上げ
- 「民生・商業用」「バイオ・アグリ」「メディカル」の3本柱を立て、新たな収益事業とする。

民生・商業



バイオ・アグリ



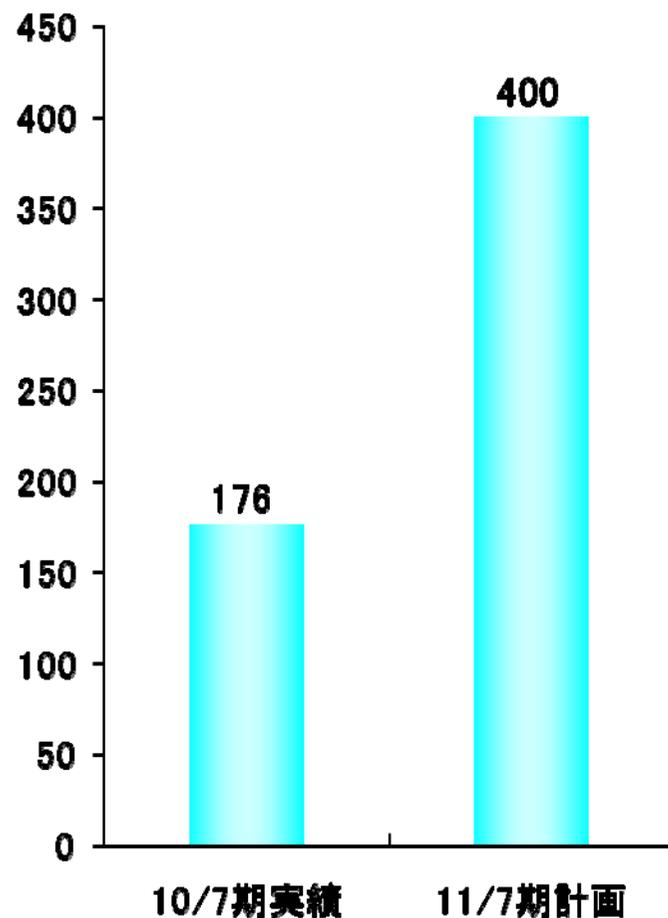
メディカル



(3)新規事業分野本格立ち上げ ～方針と計画～



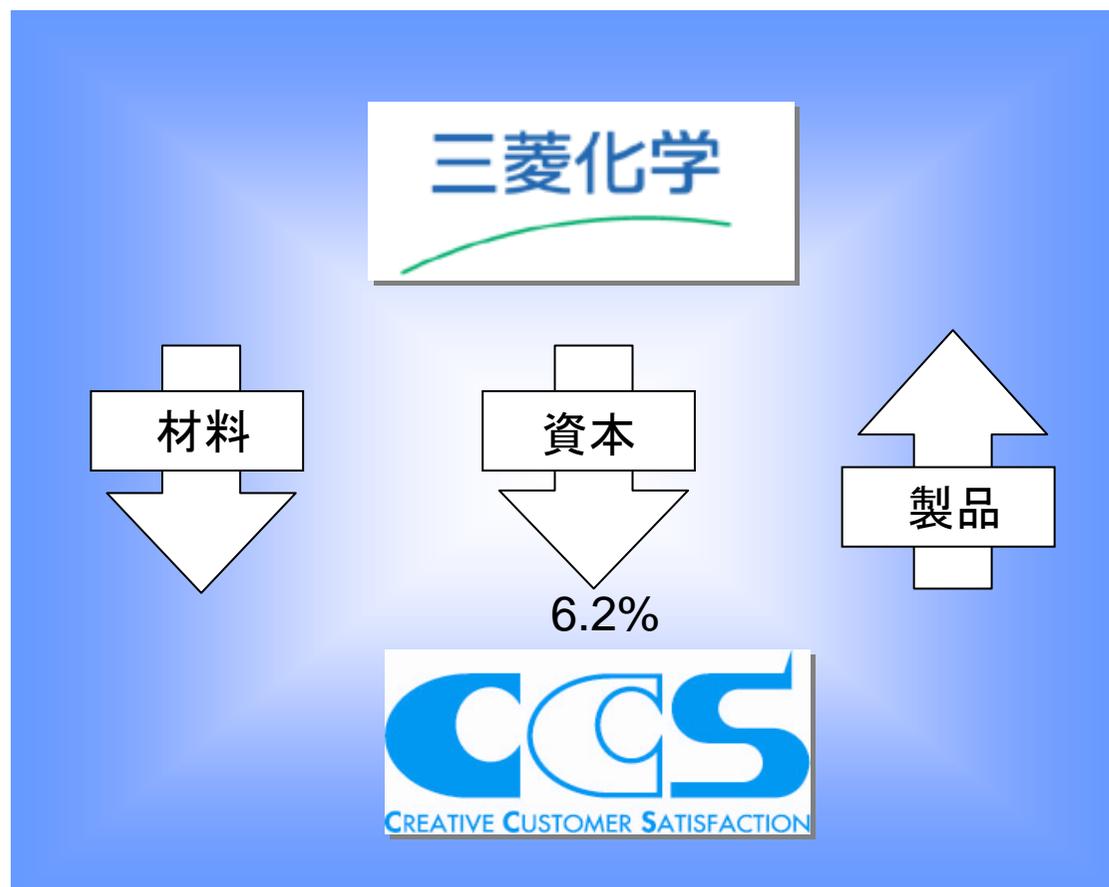
(単位:百万円)



2011年7月期方針

- 高付加価値路線を主軸として
「自然光LED」のブランド化を推進
 - 民生・商業用分野で「自然光」応用のラインアップを拡充
- アライアンスの強化
 - 三菱化学(株)とのコラボレーションによる商品開発、販路開拓等を推進
 - その他の事業会社とのアライアンスも積極的に推進
- 組織・人材の強化育成
 - 社内外のリソースの最適活用と組織力強化を図る

(3)新規事業分野本格立ち上げ ～三菱化学(株)との資本・業務提携～



資本提携の内容

- 自己株式638株、1株当たり150,500円、合計96,019,000円を譲渡
- 代表執行役社長 米田賢治の所有する当社株式638株、1株当たり150,500円、合計96,019,000円を譲渡
- 発行済株式数の6.2%
- 株式譲渡日:2010年8月11日

事業提携の内容

- LEDデバイスの共同研究・開発。デバイス化において、当社は、デザインセンターとしての機能を果たす
- 開発したLEDデバイス及び照明を三菱化学の販売路に提供

(4)植物育成プラント事業の確立

～フェアリーエンジェル社の選択と集中、
事業基盤の確立～

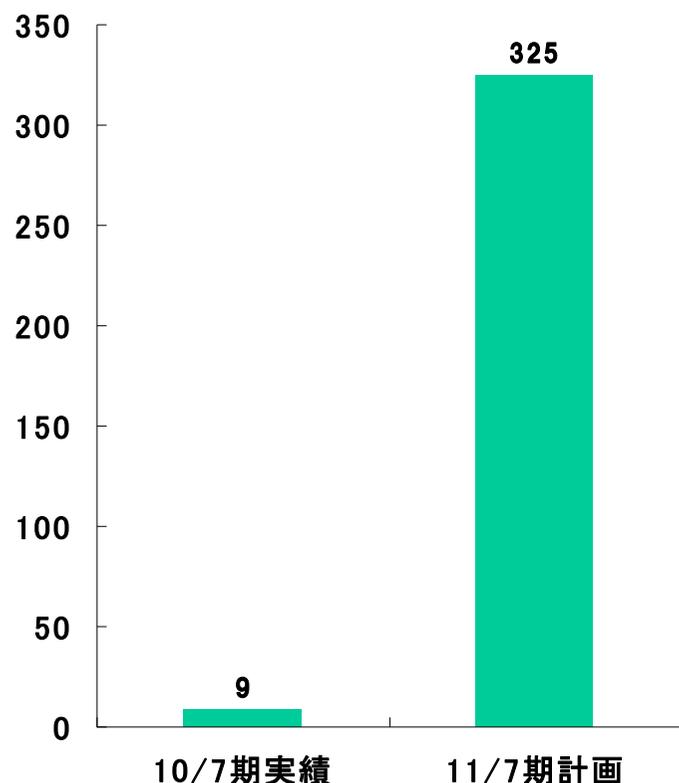
- リソースの集中とCCSの全面サポートにより、植物育成プラント事業の収益化を図る。



- 栽培技術の開発と蓄積を進め、優位性を確保
- パートナー企業とのアライアンスを強化し、事業スピードを速める。

(4)植物育成プラント事業の確立

～方針と計画～



2011年7月期方針

- 成約率の向上
 - 顧客ニーズに最適なプラントソリューションの提案
- パートナー企業との協業推進
 - 三菱化学(株)、大手ゼネコン等との協業により事業推進を図る
- 植物工場用LED照明の開発とコストダウンへの取り組み
 - 開発コスト、生産コストの削減と大量生産体制の検討
- 体制の強化と組織改革
 - フェアリーエンジェル社の体制刷新

新たな光産業を創出し、光の世界企業を目指す

バイオ・アグリ分野

- ・研究向け
- ・植物工場向け



メディカル分野

- ・病院向け



新規事業

新たなマーケットの創造

主力事業

工業用照明事業

目視・顕微鏡分野

- ・工場向け
- ・研究所向け



民生・商業分野

- ・店舗向け
- ・美術館・博物館向け



オリジナルLEDデバイス

新技術の確立

ライティングソリューション

コア技術の活用

《注意事項》 本説明会にて提供した情報につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

(ジャスダック、証券コード:6669)

<http://www.ccs-inc.co.jp>

経理財務グループ広報IRセクション

TEL (075)415-8291 FAX(075)415-7724

京都市上京区烏丸通下立売上ル

桜鶴円町374番地